

きいて きかれて いいきもち

小学校・2年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「共感と連帯感」）

＝【人権感覚育成のための視点】

「よいきき方」とはどのようなきき方なのかを考えたり、「よいきき方」をするために互いの気持ちを理解することの大切さを体験的に学習したりすることを通して、安心して互いの考えを伝え合い、他者への共感や連帯感を育てる。

2 関連する教科等について

○学級活動

内容（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
（イ よりよい人間関係の形成）

3 人権教育上の視点

- （1） 他者の立場や思いに興味・関心を寄せ、自他の価値を尊重しようとする。（価値・態度）
- （2） 能動的な傾聴や適切な自己表現で伝え合い、友達と協力しながら課題に取り組むことができる。（技能）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

全体で「よいきき方」について考え、「よいきき方」の約束について確認する。ペアになり、能動的な傾聴を意識しながら友達の発表をきく。

○活動2

テーマに沿って、思いついたアイデアをグループで発表し合い、能動的な傾聴や肯定的な言葉掛けをする。活動を振り返り、感じたことや思ったことの意見交流をする。

2 準備するもの

- 事前アンケート（事前に実施して、児童に問題意識をもたせるとよい。）
- 自己紹介カード（事前に児童に記入させておく。）
- アイデアワークシート
- 振り返りシート

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「きき名人になろう」
 - ① 「よいきき方」とは、どのようなきき方かを考える。
 - ② 「よいきき方の約束」について確認する。
 - ③ 「よいきき方の約束」を使って、ペアで自己紹介し合う。
- 活動2 「アイデアいっぱい出してみよう」
 - ① テーマに沿って、思いついたアイデアをアイデアワークシートに書く。
 - ② グループで各自のアイデアを発表し合う。
 - ③ 活動を振り返り、感じたことや思ったことを意見交流する。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 「よいきき方」できき合うことがお互いの気持ちを理解する上で大切であることを体験するためのアクティビティーであるため、「よいきき方」とは何かを考え、全員が理解した上で活動することが大切である。
- 1分程度で発表できる自己紹介カードを事前に書かせておく。
- 「活動2」では、能動的な傾聴、肯定的な言葉掛けを意識して活動する。
- 「活動2」でのテーマは、例えば、「あったらいいな、とても大きな〇〇」などのような正解のないものにすると、児童の発想の面白さやよさにも気付くことができるのでよい。
- 児童の発想を大切にしながら、みんなが喜んだり楽しんだりできるものを考えさせ、人を不快にさせるような考えが出ないように配慮する。
- 事後指導として、「よいきき方」ができたかどうか振り返る「きき名人週間」を設けるとより効果的である。

III 授業の実際

時間	学習活動		教師の働きかけ（・） 人権教育上の配慮（◎）
	発問（T）	児童の反応例（C）	
	1 アイスブレイキング 「ジェスチャーゲーム」 T グループごとに一列に並びましよう。		・ ルールの説明を簡潔に行う。

<p>5分</p>	<p>T 先生が先頭の人にテーマを出します。そのテーマを最後の人まで伝えるゲームです。</p> <p>T 言葉を使ってはいけません。表情や身振りだけで伝えましょう。</p> <p>C 表情や身振りだけだとなかなか伝わらない。</p> <p>C 言葉で話すと簡単なのにな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の緊張を和らげるとともに、ジェスチャーで伝えることの難しさを意識させ、展開へとつなげる。
<p>25分</p>	<p>2 活動1の学習内容の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>きき名人になろう</p> </div> <p>T 「よいきき方」とは、どのようなきき方でしょうか。</p> <p>C 話をしないできく。</p> <p>C 話している人の方を向いてきく。</p> <p>T それでは「よいきき方の約束」を、みんなで確認します。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>《例》・話をしない最後まできく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話している人の方に体を向けてきく ・うなずきながらきく ・話が終わったら拍手をする </div> <p>T 「よいきき方の約束」を使って、隣の人と自分のことについて紹介しましょう。</p> <p>3 活動2の学習内容の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>みんなが楽しめるアイデアいっぱい出してみよう</p> </div> <p>T ワークシートに書かれたテーマについて、思いついたアイデアを自由に書きましょう。</p> <p>T いくつ書いてもいいです。みんなが楽しくなるようなアイデアをたくさん書きましょう。</p> <p>T グループの人とアイデアを伝え合いましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よいきき方について考えさせ、児童から出された考えをもとに、教師が補足しながら「よいきき方の約束」を板書し、確認する。 ◎よいきき方できくことで、相手の気持ちを考えて尊重することが、相手を理解する上で大切だということを全員で確認できるように、教師が悪いきき方の例を示す。(技能) ・事前に書かせておいた自己紹介カードを見ながら、順番にペアで自己紹介させる。 ・正解のない様々なアイデアが思いつきそうなテーマを用意し、自由な発想を大切にする。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>《テーマ例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とってもおもしろい〇〇大会」 ・「あったらいいな、とても大きな〇〇」 ・「いってみよう、〇〇だらけの島」 </div>

	<p>T きくときは、「よいきき方の約束」を使ってききましょう。また、「いいね」「〇〇がすごい」「おもしろそう」などの言葉もかけましょう。</p>	<p>◎机間指導をし、みんなが楽しめるアイデアを書いていたたり、能動的な傾聴、肯定的な言葉掛けができていたりする児童を称賛する。 (価値・態度)</p>
15分	<p>4 振り返り T 今日の学習をしてみて、思ったことや分かったことを書きましょう。 T 思ったことや分かったことを発表しましょう。 C よいきき方が分かった。 C よいきき方できいてもらうと、うれしい。 C よいきき方できくと、話していることがよく分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入したことをもとに感想を発表させ、お互いの意見の交流ができるようにする。 ・能動的な傾聴によって一人一人の考えを大切にすることで、分かり合い、共感できることに気付かせる。

IV 資料

(1) 自己紹介カード

じこしょうかいカード

名前

好きな食べもの

好きな遊び

好きなべんきょう

たからもの

(2) アイデアワークシート

アイデアいっぱい出してみよう

テーマ「みんながえがおになるとってもおもしろい○○○大会」

【れい】「みんながえがおになる とってもおもしろい かくれんぼ 大会」

「みんながえがおになる とってもおもしろい 大会」

「みんながえがおになる とってもおもしろい 大会」

「みんながえがおになる とってもおもしろい 大会」

アイデアいっぱい出してみよう

テーマ「みんながえがお！ あったらいいな、とても大きな○○○」

【れい】「みんながえがお！ あったらいいな、とても大きな かきごおり」

「みんながえがお！ あったらいいな、とても大きな 」

「みんながえがお！ あったらいいな、とても大きな 」

「みんながえがお！ あったらいいな、とても大きな 」

アイデアいっぱい出してみよう

テーマ「行ってみよう！ みんながよろこぶ○○○だらけの島」

【れい】「行ってみよう！ みんながよろこぶ おかし だらけの島」

「行ってみよう！ みんながよろこぶ だらけの島」

「行ってみよう！ みんながよろこぶ だらけの島」

「行ってみよう！ みんながよろこぶ だらけの島」

(3) 振り返りシート

ふりかえりカード

名前 ()

○ 今日の学しゅうをふりかえりましょう。

① 「よいきき方のやくそく」をつかって、友だちの話をききましたか。
そうだと思うものに○をつけましょう。

よくできた だいたいできた すこしできた できなかった

② 今日の学しゅうで、思ったことやわかったことを書きましょう。

③ 話をきくときにこれから自分ががんばることを書きましょう。

どんなとき？
どのように？
何をがんばる？

◎ 「よいきき方のやくそく」をまもれた日と③のがんばることができた日に○をつけましょう。

月							
日							
「よいきき方のやくそく」を まもれた							
③のがんばることが できた							

似顔絵をえがこう！

小学校・4～6年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「共感と連帯感」）

＝【人権感覚育成のための視点】

相手の立場や思いに興味関心をもって考えることができる。また、お互いの作品を見せ合う活動を通して、似顔絵を描く難しさや特徴をとらえる面白さについて共感させるとともに、描き方のポイントを教え合うことで連帯感を育てる。

2 関連する教科等について

○学級活動

内容（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
（イ よりよい人間関係の形成）

3 人権教育上の視点

- （1） 他者の思いや願いに関心を寄せるとともに、他者の意見に耳を傾けたり、他者に肯定的な態度で接したりしようとする。（価値・態度）
- （2） 誰とでも分け隔てなく課題を考えたり、教え合ったりするなど、協力して解決に向け取り組むことができる。（技能）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

「似顔絵をえがこう！」を行う。

○活動2

似顔絵を見せ合い、グループ内で互いの絵のよいところなどを話し合う。

○活動3

友達の助言などを生かして、「似顔絵をえがこう！」の続きを行う。

○活動4

本時の活動を振り返ってグループ内で話し合う。

2 準備するもの

- 導入のクイズ用の似顔絵
- 児童が知っている人の写真をプリントアウトしたもの
 - ・大きさはA5判くらい
 - ・児童数の半分以上の枚数を準備
 - ・有名人（例えば歴史上の人物など）や学校の先生がよい
- B5判やA4判の用紙（児童数の2倍以上の枚数を準備しておく）

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「似顔絵をえがこう！」
 - ① 写真を見ながら、特徴をとらえ、似顔絵を描く。
 - ② 写真が見やすいよう2人1組でペアになる。
 - ③ この後二つのペアで4人グループをつくるので、何種類かの写真をペアで準備しておく。
- 活動2 「似顔絵を見せ合おう」
 - ① 4人グループになり、友達の似顔絵のよいところを称賛する。
 - ② 作品のよさや、描くのに苦労した点を話し合う。
 - ③ 友達のうまく描けたところについて、どう描いたか助言を聞く。
- 活動3 「似顔絵をえがこう！（続き）」
 - ① 4人グループのまま、もう一度写真を見ながら、友達の助言を生かして似顔絵を描き直す。
- 活動4 「振り返り」
 - ① 同じ写真をもとに描いていても、絵にはそれぞれのよさが出ていることに気付く。
 - ② 協力し合う体験を通して、連帯する大切さを味わわせる。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 単に似顔絵を上手に描くことが目的ではなく、似顔絵描きに友達の助言を取り入れることによる効果を伝えたり、友達の助言を生かしている児童の言動について取り上げたりすることなどが大切である。
- 活動1の「似顔絵をえがこう！」の練習では、絵を描くことに集中させるため、1人で活動するよう指導する。
- 活動2の「似顔絵を見せ合おう」では、活動3に向けて「よさを認め合う」視点から、うまく描けるためのポイントを伝え合うよう、指導する。
- 活動3では、話し合いながら活動してもよいが、友達の助言を生かして1回目よりも特徴をとらえた似顔絵を描けるよう指導する。
- 例えば、年度当初や席替えをしたとき、林間学校での雨天時のレクリエーションといった行事などのグループ活動で実践すると効果的である。

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 児童の反応例 (C)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
2分	<p>1 アイスブレイキング「似顔絵あてクイズ」</p> <p>T これは誰に見えますか。</p> <p>C ○○さんかな。</p> <p>T 今日は写真を見てみんなの知る有名な人の似顔絵を描きます。</p> <p>C えー！難しそう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 似顔絵あてクイズを通して、わくわくした気持ちを抱かせる。 ・ 1～2問でよい。 ・ 児童に「楽しい活動になりそうだ」と思わせる雰囲気をつくり、展開につなげる。
33分	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">似顔絵をえがこう！</div> <p>2 学習内容（手順）の確認</p> <p>T はじめに似顔絵を描きます。次にグループになり、もっとうまく描くための話合いをします。友達の助言を生かして似顔絵を描き直し、最後に振り返りを行います。</p> <p>3 似顔絵描き</p> <p>T 写真を見ながらペアになって描きます。ペアによって写真が違うので、配られたら声を出しません。それでは、始めてください。</p> <p>4 似顔絵の見せ合い (グループでの話合い活動)</p> <p>T 4人グループになって、描くのに苦労した点やうまく描けたところについて伝え合い、もっとうまく描けるコツをつかみましょう。</p> <p>C 目はうまく描けたんだけど。</p> <p>C どうやったら上手に描けるの。</p> <p>C 先にここを描いておくとうまくいくよ。でも鼻を描くのが苦手なんだ。どうすればいいかなぁ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の全体の流れについて見通しをもたせる。 ・ 本時は活動に時間がかかるので、時間を確保するために説明は簡潔に行う。 ・ 2人のペアにB5判やA4判の用紙、裏にした写真の順に配布していく。 ・ グループ内の作品のうち、うまく描けていると思う点について、どのように描いたのか、コツを積極的に聞き合うように助言する。 <p>◎ 誰とでも分け隔てなく協力して課題を考えたり、教え合ったりするなど、課題解決に向け取り組むことができるよう声掛けをする。 (技能)</p>

	<p>C 難しいよね。写真をよく見てバランスよく描くといいと思うよ。</p> <p>5 似顔絵描き（続き）</p> <p>T もう一度写真を見ながら、友達の助言を生かして似顔絵を描き直しましょう。</p>	<p>・ 1人で黙々と進めても、進めながら友達に質問して助言を聞いて描いても可とする。</p> <p>◎他者に肯定的な態度で接する機会にできるよう、他者の意見をどのように取り入れたのかを確認する。（価値・態度）</p>
<p>10分</p>	<p>6 振り返り</p> <p>T 似顔絵を描き終えて、どんな感想がありますか。</p> <p>C はじめは上手に描けなかったけれど、友達に描き方を教わったら上手に描けた。</p> <p>T どうして似顔絵が似てきたのでしょうか。</p> <p>C 友達の助言を聞いたからうまく描けるようになった。</p>	<p>・ 本時の学習を振り返り、友達の助言の効果について考えさせる。</p> <p>・ 児童の発言をつなげていくことで本時の学習の振り返りにする。</p> <p>・ 似顔絵には描いた人それぞれのよさが出ていることに気付かせる。</p>

IV 資料

(1) 板書例

似顔絵をえがこう！

有名人Aさん 有名人Bさん

似顔絵はどうでしたか？

今日の学習の流れ

- 1 似顔絵をえがこう！
 - ① 写真を見ながら、特徴をとらえ、似顔絵をえがく。
 - ② 写真が見やすいよう2人1組でペアになる。
- 2 似顔絵を見せ合おう！
 - ① 4人グループになり、自分の絵のよいところを伝える。
 - ② 作品のよさや、えがくの苦労した点を話し合う。
 - ③ 友達のうまくえがけたところについて、どうえがいたのかを聞く。
- 3 似顔絵をえがこう！（つづき）
 - 4人グループのまま、もう一度有名人の写真を見ながら、友達の助言を生かして似顔絵をえがく。
- 4 振り返り

多文化共生社会の中で生きる私たち ～よりよい街づくりを目指して～

中学校・3年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「共感と連帯感」）

＝【人権感覚育成のための視点】

身近な外国の文化を分析したり、外国人との関わり方について話し合ったりする活動を通して、他者の立場や思いに共感し、共に協力しようと努力できるようにする。

◇関連する個別の人権課題「外国人」

2 関連する教科等について

○社会 公民的分野

内容 A (1) イ (イ) 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現すること

3 人権教育上の視点

(1) 異なる文化や習慣を共感的に理解し、偏見や差別を許さない態度を身に付けている。(価値・態度)

(2) 考えや気持ちを伝え合って、課題について分かり合ったり、解決に向けて協力して取り組んだりすることができる。(技能)

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

日本に広がる身近な外国の文化を見付ける。グループで、付箋を活用してジャンルごとにまとめる。

○活動2

「自分が外国に行ったとき」と「外国人が日本に来たとき」について意見交換し、「多文化共生社会」について自分の言葉でまとめる。

2 準備するもの

○まとめ用紙（模造紙）

○ワークシート

○付箋

○黒ペン

3 アクティビティーの進め方

○活動1 「身近な外国の文化を見付けよう」

- ① 3～4人のグループで、日常生活の中で見かける外国の文化について、付箋にできるだけたくさん記入し、まとめ用紙に貼っていく。
- ② 黒板に掲示してグループごとに発表する。

○活動2 「外国人との関わりについて考えよう」

- ① 次の3点についてワークシートに具体的に記入する。
 - ・自分が外国に行ったとき、よいと感じたり困ったりすること。
 - ・外国人が日本に来て、よいと感じたり困ったりすると思うこと。
 - ・二つを比べて気付くこと。
- ② 文化や出身、国籍など多様な人々同士の関わりが多い現代、互いにどのように関わっていくことが大切かについて、グループで意見交換を行う。
- ③ グループごとに、出された意見を発表する。

○活動3 「振り返り」

- ① 今日の学習を振り返り、自分が外国に住んだ時、外国人（現地の人）にどう接してほしいかを考える。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- ここでは外国人との関わりを題材としているが、外国人にとどまらず、誰とでも分け隔てなく協力したり、分かり合ったりする姿勢が大切であることを踏まえて指導にあたる。
- 自国の文化を大切にすることは、他国の文化を認め尊重することにつながる。また、互いの文化が交わることは、さらに豊かな文化の創造につながるので、多文化共生社会では、共感と連帯感が重要であることを意識しながら指導することが大切である。
- 活動2では、外国人との関わりがポイントになるので、話し合い活動がスムーズに進められるように、教師が具体的に特定の国を指定してもよい。
- 活動2での「困ったこと」について、生徒の発言が限定的な内容にとどまる場合に備え、多文化共生に向けての現実の取組や今後対応が予定されている具体例（例：案内表示などの多言語化、多言語に対応した相談事業、学校では外国語のできる指導助手等の配置、日本語習得のための補習など）を資料として準備しておくこと、内容を広げることができる。
- 例えば、外国人と接する機会が想定される修学旅行等の行事の前に実践すると、自他の文化を考えるきっかけにもつながり効果的である。

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

III 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
5分	1 アイスブレイキング「世界に広がる日本文化」 T ペアになり、世界で受け入れられている日本の文化には、どんなものがあるのか、互いに発表し合いましょう。 S アニメ、和食、柔道。 S 意外とたくさんある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話し合いやすい雰囲気づくりに努める。 ・なぜ人気があるのか、その理由まで掘り下げて発表し合えるように指示する。 ・互いの意見をしっかりと聞き、相手の発表を否定しないように指導する。
35分	<p style="text-align: center;">共生社会の中で、私たちができることを考えよう</p> 2 身近な外国の文化の分析 T 今現在、日本の中に外国の文化がどんどん入ってきています。例えば、〇〇があります。他には、どんなものがありますか？ S 外国料理。有名ブランド企業。 S 映画。音楽。スポーツ。 T グループごとに付箋と黒ペン、まとめ用紙を活用して、似た意見をジャンルごとにまとめましょう。 3 外国人との関わりについての協議 T 次の点についてワークシートに自分の考えを記入しましょう。 Q自分が外国に行ったとき、よいと感じたり困ったりすることは何ですか。 Q外国人が日本に来て、よいと感じたり困ったりすると思うことは何ですか。 S 言葉が通じない。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が、活動のための具体例をイラストや写真で示し、生徒の関心を高めさせる。 ・クラスの現状を踏まえてグループをつくる。(3～4名程度) ・グループごとに司会・記録・発表者を分担させるとともに、まとめ用紙に記入しながら内容を共有できるよう助言する。 <p>◎文化の共通点や相違点について、共感的に理解できるように、ALTなど身近な外国人を想像するよう助言する。(価値・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実体験をふまえて記入できるように助言する。

	<p>S 仕事に制限がある。</p> <p>T 二つを比べて気付いたことはありますか。</p> <p>S よいと感じることや困ることは、日本人も外国人も同じ。</p> <p>T 次のことについて、グループで意見交換をしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Q 文化や出身、国籍など多様な人々同士の関わりが多い現代社会において、互いにどのように関わっていくことが大切でしょうか。</p> </div> <p>T 話合いで出た意見は、模造紙にまとめ、発表者も決めてください。</p> <p>T グループごとに発表をしましょう。</p> <p>S 違いだけでなく、共通点に着目して、互いに協力する。</p> <p>S こちらから声を掛ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通点が多いこと気付かせ、日本での外国人の困惑に共感させる。 <p>◎自分のこととして現実的に考えられるように、「学校で」や「街で」など、具体的な場面を想定して考えるよう助言する。(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質より量を重視し、互いの意見を否定せずに、様々な意見を出すよう助言する。 ・ より多くの意見が出やすいように、ブレインストーミングの手法で付箋に意見を書かせてもよい。 ・ 他のグループの意見で共感できるものがあれば、メモをとるように指導する。
10分	<p>4 まとめ</p> <p>T 今日の授業を受けて、「多文化共生社会」とは、どのようなものですか？ 自分の言葉でまとめましょう。</p> <p>S 多くの文化があり、その中で、共によりよい生活を送っていける社会のこと。</p> <p>S 互いの違いを認め合い、文化を尊重し合う社会のこと。</p> <p>5 振り返り</p> <p>T あなたが、外国に住んだ時、外国人（現地の人）にどう接してほしいか、ワークシートの最後に記入しましょう。</p> <p>S 分からない時に、丁寧に教えてもらいたい。</p> <p>S 一緒に協力してもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単なる語句の意味を書かせるのではなく、なぜ多様性を認め合うとよい社会になるのかという視点にもふれるように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートへの記入を参考に、意図的に何人か生徒に発表させることで、意見の共有を図る。 ・ 特にここまで出ていなかった内容があれば強調し、自分がしてほしいこと、相手にできるとよいことを全体で確認する。

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

IV 資料

(1) まとめ用紙 (模造紙にグループで出た意見をまとめる)

<活動1のまとめ用紙 例> ※ジャンルごとにまとめられるとさらによい。

身近な外国の文化を見つけよう！ () 班

<p>例<生活・暮らし></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">外国料理</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">有名ブランド企業</div> </div>	<p>例<政治・経済></p>
---	-----------------------

グループで出た意見をもとに、似た意見でジャンル分けをしてまとめる。

付箋は分かるようにどんどん貼っていく。

<活動2のまとめ用紙>

Q 自分が外国に行ったとき、よいと感じたり困ったりすることは何ですか。	Q 外国人が日本に来て、よいと感じたり困ったりすること何ですか。	Q 左の二つを比べて、気付くことは何ですか。
Q 文化や出身、国籍など多様な人々同士の関わりが多い現代社会において、互いにどのように関わっていくことが大切でしょうか。		

(2) ワークシート

多文化共生社会の中で生きる私たち

～よりよい街づくりを目指して～

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

Q自分が外国に行ったとき、よいと感じたり困ったりすることは何ですか。	Q左の二つを比べて、気付くことは何ですか。
Q外国人が日本に来て、よいと感じたり困ったりすると思うことは何ですか。	
Q文化や出身、国籍など多様な人々同士の関わりが多い現代社会において、互いにどのように関わっていくことが大切でしょうか。	
<個人の意見>	
<グループの意見>	

☆多文化共生社会とは、

社会のことである。

☆あなたが、日本と異なる言葉、文化、習慣がある外国に住んだ時、外国人（現地の人）にどう接してほしいですか。

どうする？ 町の問題！

高等学校・1～3年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「共感と連帯感」）

＝【人権感覚育成のための視点】

利害が対立する問題を相互にプラスになるような解決策を考える活動を通して、他者の立場や思いへの興味・関心を高め、同じ社会集団の一員として共通の目的を目指して努力することができるようにする。

2 関連する教科等について

○公民

※総合的な学習（探求）の時間での実施も可能

3 人権教育上の視点

(1) 自己の立場や意見を主張するだけでなく、他者の立場や意見を共感的に受け止め、尊重しようとする。（価値・態度）

(2) 集団の一員として協力して解決に向けて取り組むことができる。（技能）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

ある町で起こった町内会の問題について、自分と異なる立場の意見を聞き、グループで解決方法を話し合い、発表する。

○活動2

今回の活動について振り返り、所属する集団や所属員に関わる問題の解決について、どのような決定の仕方が望ましいかを考える。

2 準備するもの

○学習資料

○意見カード

○ワークシート

3 アクティビティーの進め方

○活動1 「活動内容の把握」

- ① 学習資料とワークシートを配布する。
- ② 話合いが行われることになった経緯について説明した上で、本時の流れを把握させる。

○活動2 「関係者の意見の把握」

- ① 6人（または5人）のグループになり、町内会長役を決める。
- ② 各グループの町内会長役に関係者の役割と意見が書かれた意見カードを配り、町内会長役は自分の意見カードを抜き、他の意見カードを裏にしてメンバーに1枚ずつ引かせ、役割を決める。
- ③ それぞれの立場の意見を読み上げていき、町内の地図にメモを取りながら、関係者の意見を把握する。

○活動3 「グループによる話合い」

- ① 学習資料中の「※話合いの観点」及び2の「(3)条件」を教師が読み上げて確認させる。
- ② 問題の解決方法について、グループでそれぞれの立場で話し合う。その際、他者の人格を否定するような発言はせず、最後まで話を聞いてから発言するように指示する。

○活動4 「全体発表」

- ① 各グループで話し合った内容を発表する。

○活動5 「振り返り」

- ① 今回の活動を振り返り、所属する集団や所属員に関わる問題の解決について、どのような決定の仕方が望ましいのかについて考え、ワークシートに記入する。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 結論を出すことが目的ではない。話合いのプロセスを通して、他者の立場や意見を共感的に受け止め、解決に向けて協力して取り組もうとする姿勢を身に付けることが目的であることを理解させる。
- 町内会での問題を解決するという具体的な事例をもとに、一般的な課題について考えることで、他のケースにも応用できる人権感覚を身に付けさせることがねらいであることを意識して指導にあたる。
- 書くことが難しい生徒や意見がまとまらないグループには、結論は書けなくても、途中までどう考えたか、どこで悩んだかを書くように助言する。
- 例えば、学校行事へ向けての取組など、学級集団として活動に取り組む時期に実践すると効果的である。

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
5分	1 本時の活動内容の確認 T 今日、ゴミ収集場所の問題の解決について考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習資料とワークシートを配る。 ・学習資料の1 (話合いの経緯) を読み上げることで、本時の活動の流れを把握させる。
40分	2 関係者の意見の把握 T 町内会長役は自分の意見カードを抜き、他の意見カードを裏にしてメンバーに引かせてください。 T 自分が担当する役割名とそれぞれの立場の意見を確認し、地図中の自宅に印を付けましょう。 T 意見カードに書かれているそれぞれの立場の意見を、順に読み上げていき、町内の地図にメモを取りながら、関係者全員の意見を把握してください。 ※学習資料の2 (1) を読み、進行する。 S 皆それぞれの立場があって、意見が異なっている。 3 グループによる話合い T 町内会長役が司会を行い、どのように問題を解決するかを話し合い、班の意見をワークシートに記入してください。 ※学習資料の2 (2) (3) を読み、進行する。 S 自分の家の前は嫌だが、町内全体のことを考えると、反対ばかりもしてられない。 S 収集場所をローテーションにはできないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・6人のグループを作らせ、町内会長役に意見カードを配る。 ※5人の場合は、町内会長役が二役を兼ねる。 ・意見カードの内容及び自宅の場所を確認させることで、話合いにおいて、自分が担当する役割の立場から意見を述べることを理解させる。 ・関係者全員の自宅の場所、意見をメモさせ、それぞれの立場によって意見が異なることを確認させることで、これから話合いによって問題を解決していくことを理解させる。 <p>◎町内会の一員として問題解決のための話合いに参加できるよう、学習資料の1の「※話合いの観点」を読み上げ、話合いのポイントを明確にする。(技能)</p> <p>◎自己の立場や意見を主張するだけでなく、他者の立場や意見を共感的に受け止め、尊重できる話合いになるよう、他者の人格を否定するような発言はせず、最後まで話を聞いてから発言するように指示する。(価値・態度)</p>

	<p>S どの場所にしても、ゴミ出しのルールは徹底させる必要がある。</p> <p>4 全体での発表</p> <p>T 各グループで話し合った内容を発表してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 結論だけでなく、根拠をもとに理由を考えさせることで、話し合いを深めさせる。 結論とその理由を簡潔に各班1分程度で発表させる。
5分	<p>5 振り返り</p> <p>T 今日の学習を振り返り、所属する集団や所属員に関わる問題の解決には、どのような決定の仕方が望ましいのかを考え、ワークシートに記入してください。</p> <p>S 自分の意見を主張するだけではなく、相手の意見も考えて妥協点を見付けていくことが望ましいと思った。</p> <p>S みんなの問題は、みんなで協力して解決することが望ましいと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校や近隣において起こりそうな問題を想起させることで、日常の問題解決の仕方と関連付けて考えることができるようにする。

IV 資料

(1) 学習資料

ゴミ収集場所の問題を解決しよう

1 話合いの経緯

皆さんの住む町で、「ゴミ収集場所を別の場所に移して欲しい」という要望が出されました。そこで、関係のある皆さんに集まってもらい、話合いが行われることになりました。

【出席者】

Aさん（町内会長）、Bさん（ゴミ収集場所の前に住む住人）、Cさん（ゴミ収集場所近くの古くからの住人）、Dさん（新しく引っ越ししてきた住人）、Eさん（飲食店経営者）、F不動産

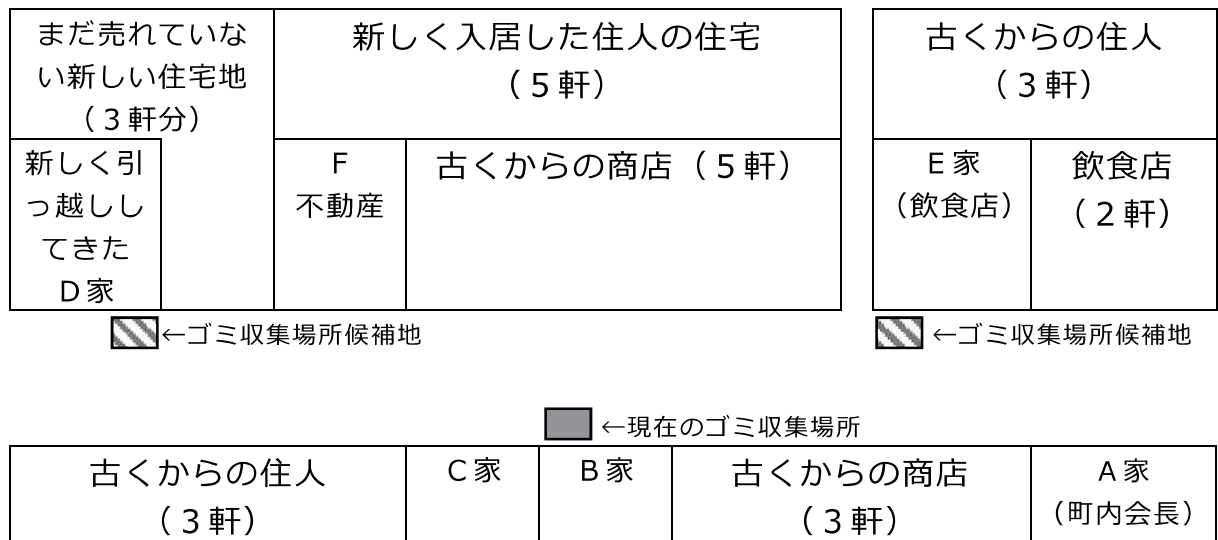
※話合いの観点

- ①ゴミ収集場所の問題を解決するという目的を達成するために、ゴミ収集場所、ゴミ出しのルール、その他の話合いの結果は有効な解決策であるか。
- ②違う立場であっても、その解決策は受け入れ可能な配慮があるか。
- ③話合いの中で、参加者全員が意見を言うことができたか。

2 話合いをしよう

- (1) ゴミ収集場所について、町内会の話合いを始めます。出席者は、それぞれの意見を1人ずつ発表してください。
- (2) 話し合いたい内容は、次の2点です。
 - ①ゴミ収集場所はどこがよいか。
 - ②ゴミ出しのルールをどうするか。
- (3) また、ゴミを収集してもらうには、次のような条件があります。
 - ①車の通行上、ゴミ収集場所に指定できる場所は、Bさんの家の前、Dさんの家の前、Eさんの家の前の3か所です。
 - ②毎週火・金曜日が燃えるゴミ、毎週木曜日が燃えないゴミの収集日です。

3 町内の地図



(3) ワークシート

どうする？ 町の問題！	
1 [班] の意見 年 組 番 氏名 グループでの意見 (メモ)	
どのようにしてこの問題を解決しますか。	
理由 (根拠となることも書く)	
2 他班の発表 (メモと気付き)	
3 所属する集団や所属員に関わる問題 (トラブル) の解決について、どのような決定の仕方が望ましいと思いますか。	

(2) 意見カード

<p>【Aさん (町内会長)】 古くからの住人も、新しい住人も、皆さんにとって住みよい町にしたい。それぞれ言いたいことはあるだろうが、ゴミ収集場所とそが出し方について町内会の住民が納得できる方法を考えたい。</p>	<p>【Bさん (提案者)】 ゴミ出しのルールを守らない人もいる。カラスや猫がゴミ収集場所を荒らし、その後始末をするなど、長年、我慢してきた。新しい住人が増えるに従って、ゴミの量も増えてきた。際、別の場所にゴミ収集場所を変えてほしい。なぜ15年間も私の家の前だけにだけずつとないとけないのか。</p>	<p>【Cさん】 住人が増えてゴミの量が増えるのは、新しい住人が来たからだ。今までは周辺の住人が協力して何とかやってきた。まだ住んでいる人が少ない、新しい住人の周辺にゴミ収集場所を移すのが一番良い。ゴミ収集車の通行上、収集場所に指定できずな場所は、D家の前あたりかな。</p>	<p>【Dさん】 新しい住人よりも古くからの住人の方が断然多い。ゴミは古くからの住人や商店街から出す物がほとんどで、新しい住人のゴミ収集量はたいした量ではない。もし、変えるとしても旧住民の方が多量のゴミを出しているのだから、ゴミ収集車の通行を考えたらE家の前がよいのではないか。</p>
<p>【Eさん】 商店街や飲食店前をゴミ収集場所にすることは難しい。ゴミ出しのルールの徹底を図るので、現状のままB家の前をお願いしたい。周辺の住民に迷惑をかけないようにゴミの出し方のルールを決めよう。</p>	<p>【F不動産】 販売中の新しい住宅地の前にゴミ収集場所をつくってほしくない。商売に影響する。新しい住人にはゴミの減量化とゴミ出しのルールの徹底を図るので、現状のまま変える必要はないのではないか。</p>		

V 出典・参考資料

- 「どうする？ 町の問題！」(平成25年度)「広島県人権教育教材開発委員会作成 教材集」広島県教育委員会